

【総長海外出張報告】

2019年2月10日～12日：フィリピン

2月10日（日）から12日（火）にかけてフィリピンに出張しました。主な用務は、国際稲研究所（IRRI）で開催されたフォーラムと国際熱帯農学ステーション（ISTAS）オープニング式典への出席、IRRI、ビサヤ国立大学（VSU）との全学交流協定（MOU）締結です。

1. 国際稲研究所（IRRI）訪問

今回の出張では、マニラから車で2時間ほどのロスバニョスに滞在し、初めにIRRIを訪問しました。この研究所は、1960年に設立された稲を中心に研究する機関であり、広大な土地を有し、屋外の実験農場だけでなく、人工的に環境を変えられる屋内の実験農場もあります。

IRRIではMorell所長と懇談するとともに施設を見学しました。



IRRIのMorell所長と

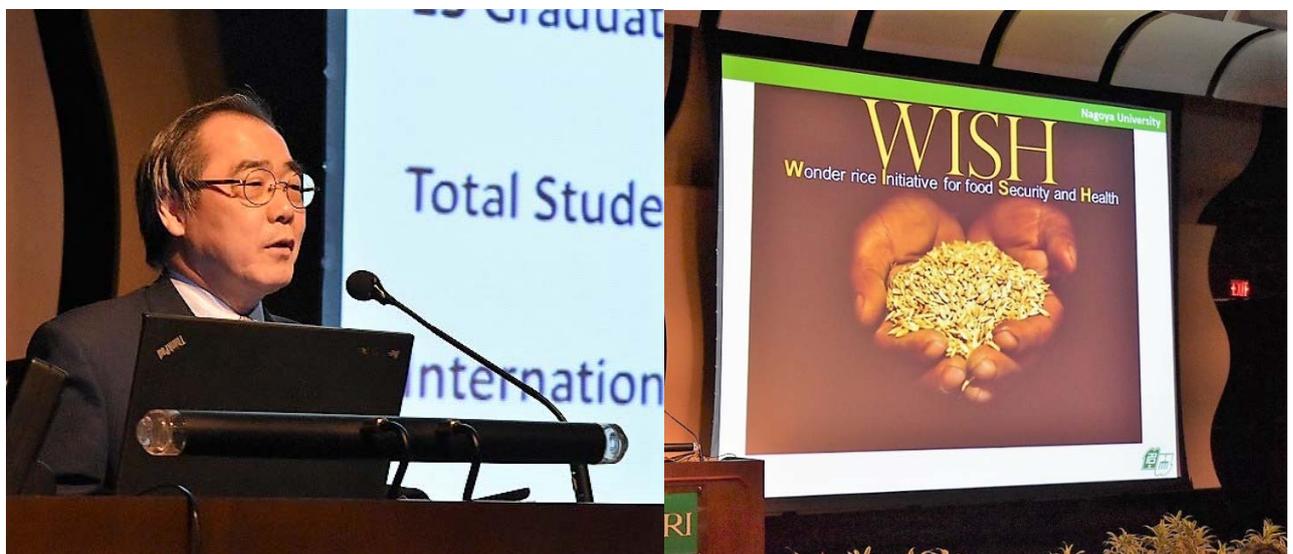


IRRIの実験フィールドを視察



IRRI、UPLB 関係者との集合写真

さらに、IRRI で開催された “Catalyzing Partnerships in Research Excellence and Internationalization of Education Towards Food Security in the Asian and African Region” と題したフォーラムに参加し、名古屋大学の概要を紹介するとともに、本学とフィリピンとの交流の状況、本学の農業や食糧問題への取り組みなどについて説明しました。



名古屋大学の概要・取り組みに関する発表

フォーラムの後には、Morell 所長とともに IRRI と名古屋大学との全学学術交流協定を締結しました。



IRRI との全学学術交流協定への署名

2. 国際熱帯農学ステーション（ISTAS）オープニング式典出席

ISTAS とは、名古屋大学、フィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）、VSU、カンボジア王立農業大学の連携による教育・研究・社会貢献のプラットフォームのことで、今回は、本事業の開始を記念する式典に参加しました。

私からの挨拶では、本学がフィリピンと1970年代から交流を開始しており、両者の人的ネットワークによって地球規模の課題解決に取り組んでいること、UPLBにISTASのメインステーションを設置することやサブステーションとなるVSUと、今回、全学学術交流協定を結ぶことなどに触れました。



ISTAS オープニング式典にて

さらに、本式典の中で VSU と本学との全学学術交流協定に署名しました。



VSU との全学学術交流協定への署名



ISTAS オープニング式典での集合写真

3. 所感

今回の出張も 2 泊 3 日の弾丸ツアーでしたが、主な目的は、(1) IRRI との MOU 締結と、IRRI の器具等のアジアサテライトキャンパス学院 (ASCI) フィリピンキャンパス校への譲り受け、(2) ISTAS オープニング記念式典に出席すること、また、この関連で、(3) VSU (学長の Tulin 氏は名古屋大学同

窓生)とのMOUを締結することでした。また、40年以上にわたり連携を深めてきたUPLB、そして、1983年のMOU締結以来、農学関連で密接な協力関係にあるThe Southeast Asian Regional Center for Graduate Study for Research and Agriculture (SEARGA)と今後の連携の方向性について意見交換・情報共有を行うことも大切な目的の一つです。

近年、本学とフィリピンの諸機関は、ASCI学生へのスカラーシップ、連携スペースの提供、共同研究の推進など、大変積極的に連携を進めており、提携機関に対しては、本学の活動に対する支援を他国以上に行っていたいただいていることに感謝しています。私は、農業・食糧という分野は、今後、人類の持続的発展と幸福の実現のためには重要な課題であり、本学がアジアを中心にしつつも、アフリカなど世界の国々と連携してイノベーションを起こしていくべき領域の一つであると考えています。今回、そのような問題意識をフィリピンの諸機関のトップと共有できたことは大変有意義であり、また、農業・食糧関係が中心とはいえ、広い分野の連携で日本、特に本学への期待が強いことを再認識できました。本学関係者の努力に改めて敬意を表する次第です。

IRRIのMorell所長の話によると、日本のみならず世界中で、一人当たりのコメ消費量は減っているものの、人口の増加により、総体としては需要増が起きており、コメは、トウモロコシや小麦と並んで三大主要穀物の一つでもあるので、気候変動(特に干ばつ)や土壌の変化など、地球規模の変化が起こっている中、IRRIの行っている研究は重要であるとのことでした。

さらに、今回のISTASの創設により、UPLB、VSU、王立農業大学(カンボジア)、本学の四者による共同研究と人材交流・育成のプログラムは、今後世界の安定的な食糧の確保・流通・ビジネスという点でも重要な取り組みであると感じました。また、今回は、岐阜大学から2名の研究者が同行し、本学の海外活動を直接見ていただきました。今後、法人統合に向けての協議の中で、両大学の共同事業のアイデアが育まれれば大変幸いです。